

きちんと備え命守って

きちんと備えないと、いざというときに命を守れません。東日本大震災で被災した男性が17日、防府市立中関小の6年生に被災体験を語った。当時0歳で震災の記憶がない児童たちは、自然の脅威や備えの大切さについて学んだ。

【森紗和子】

防府・中関小 オンライン授業



オンラインで体験を語ったのは、宮城県南三陸町の伊藤俊さん(47)。被災時は勤務先のホテルにいて、客やスタッフの避難誘導に追われた。幸いホテルは高台に位置し低層階の浸水にとどまったが、津波は4階建ての自宅マンションの屋上を越えた。妻と娘は自宅におらず無事だった。現在は、ホテルを発着するバスで町を案内面を通して伊藤さんの被災体験を聞く児童たち

児童に体験語る

内しながら震災の経緯を伝える「語り部バス」のガイドを務めている。

同県のためによると、町では震災関連死を含め620人が亡くなり、211人が今も行方不明だ。伊藤さんは同級生を亡くした。「たくさんの人を失ってたくさんの思い出を失った。災害は単に物を壊すだけでなく、人の心も壊した」。それまでの日常がいかに幸せだったか、気が付いた。また、備えの品が不十分でさまざまなおとに窮したという「何にも知らない命を守れません。いろんな事を勉強して備え、自分の命を守ってくださ」と児童たちにメッ

セージを送った。

住谷琉稀さん(11)は震災の6日後に生まれた。かつて東北に津波が来たことは知っていたが「床上浸水くらいかと思っていた」。津波に襲われ、冷蔵庫が天井にめり込んだ伊藤さんの自宅の写真を見て、驚きのあまり声が出た。「ただ話を聞いて終わりではなく、子ども人に伝えたい」と話した。川崎梓音さん(11)も巨大津波のことを初めて知ったという「怖い。備えたり、家族とどこに避難するか話したりしたい」と感想を述べた。

日本赤十字社宮城県支部は2020年度から、東日本大震災の語り部がオンラインで全国各地の子供たちに体験を語る「JRCオンライン語り部LIVE」を実施している。

「防災学習
JRCオンライン語り部
LIVE2022」

令和5年1月19日
毎日新聞

東日本大震災で被災 宮城の伊藤さん